

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600050		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム ほうばい		
所在地	高知県幡多郡三原村宮ノ川字ヒジリ山1420-5		
自己評価作成日	平成24年9月10日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人、一人の時間を大切に 住み慣れた地域で昔ながらの「ほうばい(朋輩)」と和みとゆとりのある生活を送って頂けるよう支援する。また、施設を開放し、地域の方々に気軽に立ち寄っていただけるよう努め、利用者の方々が馴染みの人、馴染みの場所を近くに感じながらゆったりと安心した日が過ごせるように努める。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JgvosyoCd=3992600050-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年10月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

野山や畑に囲まれた事業所は、天井が高く、解放感があり、居間に隣接しているウッドデッキに出ると、野鳥の鳴き声や季節の移ろいを感じ取ることもできる。ほとんどの利用者が地元出身であり、面会者も共通の知り合いということが多く、自然環境や馴染みの人達との関係にも恵まれている。今年4月からは、法人の栄養士の支援を受け、調理師の資格を持つ職員も配置して、「食の新鮮さ」と「利用者の美味しいの一言」を目標に、事業所で食事を作ることに取り組んでいる。日々の暮らしの中では、一人ひとりの利用者がこれまでに良かったと思うこと、元気に仕事をしていた頃のこと等を振り返り、そこから自然と生まれる笑顔や逆に現状をもどかしく思う心情等を大切に、心から共感できる関係を築くように努めている。こうした経験を積みながら、一人ひとりの利用者をより深く理解することの意味を利用者自身に教えられ、その手ごたえを感じつつ、日々のケアに活かしている事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の方々が、地域の中で長く親しんだ人達と、和やかに、ゆったりと過ごせるよう、具体的なケアについて話し合い、職員間で共有している。	独自の理念を掲げ、スタッフルームに掲示して職員に意識付けすると共に、配置換えや新規採用時に周知している。地域に出ることを大切に、様々な行事や買い物などに出かけ、昔からの顔見知りとの交流を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として、村の行事、区の行事に参加している。(クリーンデー、夏祭り、神祭り、学校行事) 買い物、郵便局等にでかけ 地域の人達とふれあう機会を持っている。	自治会に加入し、クリーンデー、夏祭り、小中学校の運動会等に参加している。事業所には、小中学生や敬老会の催しに参加した人達の訪問があり、演奏や踊りを披露してくれている。面会者による複数の利用者との交流、野菜や果物等の差し入れなど、日常的に地域との付き合いをしている。	前年度の課題を基に、法人のホームページを印刷して地元の公的機関に配布しているが、事業所として地域住民向けに情報発信を行い、地域との関係をより深める更なる取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が受け入れしている実習生の実習場所として人材育成の協力を行っている。また、小中学校の職場体験や、学習発表の場としての要請を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催している。事業所の運営状況を知っていただくと共に、よりよいサービスの向上に向けて助言、指導をいただいている。また、事業所の運営にも協力いただいている。	利用者の状況、行事、外部評価の結果等を報告し、話し合いを行っているが、話し合いの経過や結果が議事録では分かりづらい。	会議に出席していない職員や第三者に分かりやすい記録の方法、積極的な議事録の公開、議事内容の検討等、運営推進会議を活かせる更なる取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方の訪問が、月に数回あり運営状況や利用者の状況を話し合っている。	運営推進会議はもちろん、来所時や問題が発生した時などに報告や相談をしており、協力関係は構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主体の身体拘束委員会で勉強会やケース検討会を行う等して、各現場で身体拘束をしないケアを徹底している。 玄関は夜間(21時～6時)のみ施錠している。	2か月毎に、法人全体の身体拘束委員会で講義や事例検討等を行っており、出席した職員は職員会で報告し、内容を周知している。睡眠薬の適切な使用、外出傾向のある利用者に対するさりげない同行など、その人らしい暮らし方を支援し、身体拘束をしないケアに取り組むように努めている。リスクについても随時話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待防止について定期的に勉強会をおこなっている。結果を各現場に持ち帰り 日常のケアで利用者の言動に対しての受け答えはどうか等、具体例を出し 職員同士で検討し虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、この制度を必要とする利用者はいないが、勉強会で取り上げ理解をふかめるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の現状、利用料金(改定時)、ターミナルケアを含めた医療連携などに関して、納得が得られるよう十分時間を取り説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会の機会を捉えて 気軽に話し合える雰囲気作りを心がけている。出された意見、要望は職員間で話し合い、統一した対応が出来るよう努めている。	利用者からは、日々の生活の中で希望等を聞いたり汲み取るようにして、ケアに反映させている。家族からは、面会時や電話で積極的に聞き、意見等を引き出すように努めている。また、年1回開催する家族会では、家族同士で話し合う機会を設けており、出された意見や要望等は、マニュアルに沿って対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会、申し送りなどを利用し意見を聞くよう努めている。また、ミーティング・勉強会では、一人一回は発言するよう促し、提案等は出来ることから運営に取り入れるように努めている。	職員会や日々の申し送り時に職員から意見を聞き、可能な限り運営に反映させている。最近では、遠方への外出の試み、レクリエーションの取り組み等、職員間で話し合いながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、賃金体制の見直し等を行い、働きやすい職場環境になるよう努めている。また、職員の声を聞くよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修だけでなく、スキルアップ、キャリアアップ等 個々にあった研修・資格試験に積極的に参加できるよう勤務の調整や公務扱いにするなど、出来る限りサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内に同じ施設がないので、法人内のグループホームとの交流をはかりながら、宿毛市のグループホームの勉強会に参加させて頂き サービスの質の向上につながるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際、ご本人と十分話し合う時間を設け「心身の状態、生活状況を十分把握し、ご本人の安心感の確保と職員との信頼関係が築けるよう努めている。他施設より入所の場合、詳細な情報提供を得る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや今までの苦労など、ゆっくりと傾聴すると共に、ご本人、ご家族にとってよりよいケアとは何かを話し合いながら信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は、当事業所だけでなく、近隣の施設や訪問介護、デイサービス等の利用等も説明し、ご本人、ご家族の状況に応じたより良いサービスを選択できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の特性、不安、喜びなどを出来る限り理解し、分かち合い、また 家事、農作業等を利用者に教えてもらうなど共に支え合う関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を、面会時やお便り等を通じて伝え、意見等も伺いながら家族の思いに寄り添えるよう努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方に気楽に訪問してもらえるような雰囲気づくりに努めている	ドライブを兼ねて自宅や親せき宅に行ったり、外出先や面会時に友人や知人と交流するなど、馴染みの関係継続の支援を行っている。利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所については、入居時に聞き、入居後も折に触れ話し合って把握に努めているが、記録が不十分である。	その人らしい暮らし方を継続させるためにも、入居時や入居後に把握したこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係、その他さまざまな情報を整理できるシート等を工夫し、記録を整理して定期的に見直し、馴染みの人や場との関係継続により活かせる取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やホールの座る場所を固定せず利用者同士が気軽に話し合えるようにしている。また、孤立したり、もめごとがおこらないように職員が調整役となり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も訪問をしてくださるご家族もあり、入院中の方にはお見舞いに行く等してより良い関係が継続出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人が希望を表出しやすい言葉がけや対応を心がけている。思いをうまく表出できない方については、表情や言動を観察するなどして把握するようつとめている。	日々の生活の中で利用者の思いを聞いた、り、表情やつぶやきなどからその真意を汲み取るように努めている。意向等の把握が困難な場合は、家族や職員と話し合い、利用者本位に支援できるように検討しており、毎日の過ごし方については、出来るだけ利用者の希望やペースを尊重して支援するようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、利用開始時や面会時に生活歴やこれまでの経過等について話を聞き、把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解し、小さな変化も見逃さないように努め、本人の全体像を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時を利用し、ケア会議を行っている。また、日々の関わりの中でもご本人、ご家族の意見を聞くと共に、毎月職員全員でモニタリングとカンファレンスを行い、利用者にとってより良い介護計画となるよう努めている。	家族が参加するミニカンファレンス、電話での相談、日々の暮らしの中で得た情報等を踏まえ、全職員が参加するカンファレンスで介護計画作成とモニタリングを実施している。介護計画の見直しは短期目標は3か月毎、長期目標は6か月毎に行い、変化があれば随時見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、食事、水分量、排泄状況、身体状況及び日々の暮らしの様子や言動を記録し、職員は勤務開始前に確認し、情報の共有に努めると共に、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況・ニーズに応じて 通院や送迎等の支援を行っている また、相談等にも適宜応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、地域包括支援センターなどと連結しながら、利用者が安全で豊かな暮らしができるよう支援している。地域のお祭りへの参加時には、優先的に駐車場を確保してくれたり会場までの車の乗り入れを許可してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、協力医の往診を受け 症状が出れば随時歯科診療を受けている。緊急時にも往診対応あり。利用者、ご家族から他科・他の病院の受診希望があるときは、適切に医療が受けられるよう支援している。	協力医療機関の往診が月2回あり、職員が対応している。本人や家族が希望する他の医療機関にも受診しており、基本的に家族が受診介助しているが、必要に応じて職員が対応している。いずれの場合も、家族及び職員が情報を共有できるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週2回の訪問を受けている。緊急時対応もあり、日々の健康管理や医療面の相談をしたり、指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリー作成。主治医からもすみやかに情報提供していただけるよう支援している。退院時には、事業所の状況、治療方針等について主治医と十分話し合いをもち、ご本人、ご家族の気持ちも反映されるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時にターミナルについて、事業所ができることを十分説明し、終末期の対応について希望を聞いている。また、終末期を迎えた場合は、再度ターミナルについて話し合い、ご本人、ご家族の希望に添えるよう支援している。	入居時に、「重度化対応、終末期ケア対応指針」に沿って説明し、同意を得ている。重度化傾向が見られた時には、再度、関係者等を交えて話し合い、本人や家族の意向を確認しながら、チームで支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成しており、勉強会を通じて実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回防災訓練を実施している。非常用の備品、救出機器の充実を図り 使用体験している。	消防の協力を得て避難訓練を実施しているが、地域住民の参加は得られていない。消火器等の定期的な設備点検は実施しており、非常用食料等の備蓄も3日分を目安に準備している。	事業所が地域の避難場所として指定されており、地域ぐるみで避難訓練等を実施する環境は整っている。運営推進会議等で地域を巻き込んだ災害対策について話し合うなど、地域住民との相互協力による防災訓練を実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、言葉掛けなど年長者として敬意をはらい、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、管理者・職員同士でチェックしあい努めている。	利用者は人生の大先輩であり、学ぶ姿勢をもつこと、可能な限り利用者の意向に沿うように努めること等を心掛け、日々のケアに当たっている。排泄や入浴の支援時に他者に気づかれないように配慮すること、利用者に関する話はスタッフルームで行うことなど、人格の尊重やプライバシーの確保について常に留意して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の生活歴や経験を念頭に、日々の会話や表情から思いを把握し利用者が自分の意志を表出できるよう働きかけ、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間などの1日の流れの目安は決めているが、その日に何をしたいか、利用者一人一人のペースに合わせ、希望に沿った暮らしを支援している。行事を行う場合は、利用者の希望を取り入れて事前に話し合うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に利用者の好みの服を準備してもらっている。必要な物はご家族に相談したり、担当職員が準備している。散髪やカラーリング、化粧など希望を聞き支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は地産地消(地域の作業所活用)・季節に配慮し、利用者の意見も取り入れた献立にしている。出来ることは利用者と共に準備・片付けをしている。2~3月に1回は栄養士に検食・指導してもらっている。	今年4月から、法人の栄養士の協力のもと、調理師の資格を持つ職員も配置して、事業所で食事を作っている。いただき物がある時や利用者の希望があれば、食事内容を柔軟に変更している。利用者は、下準備や後片づけなど出来ることを職員と一緒にいき、職員も同じ食事を食べ、食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・1日の水分量・嗜好品を把握すると共に、月に一回体重測定を行っている。箸・スプーン・普通食・粥・きざみ等 好み・状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。十分にできない利用者については介助している。ケア用品を消毒し保清にも気を付けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、自尊心を傷つけないよう配慮しながら声掛けし、出来るだけトイレ内で排泄するよう支援している。パンツやパット類は、利用者の排泄状態に合わせて利用している。	排泄間隔や排泄のサインを把握してトイレでの排泄支援を行うとともに、失禁量や失禁の多い時間帯等も見極めて、排泄用品が極力少なくなるように、個別の支援に努めている。また、トイレ誘導時や失禁があった時などは、周囲の利用者に気づかれぬような配慮もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をもとに、水分補給や運動、腹部マッサージを行い利用者の状態に合わせて自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴してもらっている。午後2時からを目安にしているが、時間は希望の時間に入ってもらっている。夜間やそれ以外も希望があればシャワー浴している。仲の良い利用者同士入ったり、介助が欲しい方等、個々の状態に応じた支援を行っている。	基本的に14時から17時の間に入浴するようにしているが、希望があれば夜間のシャワー浴等も出来るように支援している。入浴を拒否する利用者については、タイミングを見ながら声掛けを繰り返したり、同性介助にする等、個々の利用者に合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ散歩や体操、家事などの活動を通して生活リズムを整え、ゆっくり休息できるよう支援している。また、眠剤を使用する場合は、日中の活動に影響を与えないよう十分観察し、主治医と話し合いながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はケース毎に整理し、個々の薬の内容については一覧表を作成している。薬の変更の際は連絡表に記入し全職員で情報を共有している。また、処方毎に薬剤師より服薬指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の保育園、小中学校の運動会や村の行事などに、利用者と話しながら参加している。また、家事等の作業をしてもらい、役割として意識したり 信仰の為の神棚を設置(魂入れ)したり、日々楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、自宅訪問など、利用者のそれぞれの希望に沿って外出できるよう支援している。また、家族の協力を得て外泊、墓参りのための外泊ができるよう努めている。	週1回、数名の利用者がドライブや買い物に出かけている。車いすの利用者も一緒に散歩に出かけたり、地域の行事に参加したりすることはあるが、日常的に散歩等の外出はあまり行っていない。	外出や外気浴は、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として大切な支援の一つであるので、ウッドデッキに出て日光浴をしたり、短時間でも散歩に出掛けるなど、日常的に外気に触れる機会を設けることが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて本人が少額の金銭を管理している。買い物時には、利用者本人が支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話がかけられるよう家族、親類等の電話番号を解りやすく個々に整理するなどして支援している。手紙も希望時に掛けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の意見を反映させながら、テーブル・ソファの位置を決め、気分転換に時々模様替えしたり、居心地良く過ごせるよう工夫している。	共用空間は、天井が高く、広々として、解放感があり、清潔で整理整頓されている。ウッドデッキのベンチに腰を掛けると、ゆず畑や野原が広がり、野鳥のさえずりも聞こえてくる。居間の一角に神棚を飾り、毎日お茶をお供えするなど、懐かしい佇まいが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間は一体的な造りであるが、利用者それぞれが好きな場所を選び過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時には、本人らしい居室になるよう使い慣れた品物を持って来て頂けるよう説明し、利用開始後は生活状況を見ながら安らぎが得られる居室になるようご家族にも協力をして頂き支援している。	広い居室には、備え付けのトイレ、洗面台、押し入れ、ベッドがあり、整理整頓も行き届いている。利用者は使い慣れたタンス、椅子、置時計、テレビ、ぬいぐるみ等を持ち込んでおり、居心地良く過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	法人の事故対策委員会を通じて、事業所内の危険場所の有無、車椅子などの物品の点検を行い、安全な毎日が過ごせるよう努めている。また、利用者それぞれの身体状況に合わせて手すりを設置するなど、環境整備にも努め、事故防止に繋げている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				